

令和6年度第6次瀬戸市総合計画評価委員会 議事録

日 時：令和7年3月19日（水）午後1時から午後3時まで

場 所：瀬戸市役所 東庁舎4階大会議室

出席者：石川 良文（南山大学総合政策学部 教授）

澤田 景子（名古屋学院大学現代社会学部 講師）

加藤 文弥（瀬戸市自治連合会 会長（效範連区自治協議会 会長））

河村 誠悟（瀬戸商工会議所 会頭）

成田 順一（瀬戸信用金庫 会長）

南 慎太郎（ゲストハウスますきち オーナー）

林 ともみ（ラジオサンキュー パーソナリティ、瀬戸市障害者地域自立支援委員会 副委員長）

萱岡 愛（瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会 委員）

小坂 英雄（行政書士、せと・しごと塾 塾長）

傍聴者：5名

議 題：1 あいさつ

2 第6次瀬戸市総合計画の計画期間における人口動態について

3 第6次瀬戸市総合計画及び第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について

4 次期瀬戸市将来計画の策定について

5 その他

発言者	内 容
開会	
事務局	<p>定刻になりましたので、これより、令和6年度第6次瀬戸市総合計画評価委員会を開催させていただきます。委員の皆さま、本日は年度末の大変お忙しい中、評価委員会にご参画いただき、ありがとうございます。</p> <p>本日の評価委員会は公開となっており、5名の方から傍聴の申し出がありましたことをご報告させていただきます。</p>
1 あいさつ	
事務局	<p>開催にあたりまして、瀬戸市副市長大森雅之より、ご挨拶をさせていただきます。副市長、よろしく申し上げます。</p>
副市長	<p>本来であれば、川本市長が参上して皆さまの前でご挨拶いただくことが本望ですが、あいにく公務が重なっておりますので、私の方から一言ご挨拶をさせていただきます。</p> <p>本市では、第6次瀬戸市総合計画に基づき、平成29年度から様々な事業を行ってまいりました。計画期間が残りあと2年ということで、総括の時期に差し掛かったところです。道半ばでコロナウイルス感染症の流行等がありましたが、何とかあと2年というところまで来ることができました。</p> <p>以前から、将来像や都市像という目的を持って施策を進めてまいりました。川本市長に変わってからは、市長が公約に掲げる「住む・働く・学ぶ・育む」という暮らしの4要素を取り入れ、施策を考えてまいりました。昨今の災害や物価高騰等があり、もう一つ「守る」という新たな要素に力点を置き、来年</p>

	<p>度からは5つの要素で取り組んでいきます。</p> <p>本日は皆さまから総括と評価をしていただけるということで、忌憚のないご意見をいただければと思います。2年後から始まる次期将来計画については、既に準備を進めておりますが、そちらにも成果や課題として様々なところを載せていきたいと思っていますので、本日はよろしく願いいたします。</p>
事務局	大森副市長は別の公務があり、ここで退席とさせていただきます。
副市長	石川座長、委員の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。
事務局	<p>それでは、第6次瀬戸市総合計画評価委員会について、簡単にご説明をさせていただきます。次第の次に委員名簿がございます。当評価委員会の構成員9名のうち1名に変更があるためご報告いたします。瀬戸市自治連合会会長として本評価委員会にご参画いただいております伊藤勉様が昨年末にご逝去なされたことに伴い、ご後任として瀬戸市自治連合会会長をお引き受けになられた効範連区自治協議会会長の加藤文弥様に本評価委員会へのご参画をお願いしております。伊藤勉様におかれましては、本評価委員会のみならず、瀬戸市自治連合会会長として、また八幡台自治会会長として市政の発展にご尽力いただきましたので、この場をお借りしてご冥福をお祈り申し上げます。</p> <p>それでは、加藤委員から一言ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員	ただいまご紹介いただきました加藤でございます。何分にも不慣れな席ですので大変緊張しておりますが、大森副市長からも忌憚のない意見をとりましたので、遠慮なく緊張しながらも務めさせていただきます。
事務局	<p>続いて、「第6次瀬戸市総合計画評価委員について」という資料をご覧ください。趣旨にありますとおり、瀬戸市の総合計画及び総合戦略の進行管理を目的に開催させていただきます。</p> <p>それでは、ここからの進行を石川座長をお願いしたいと思います。</p>
座長	<p>先ほど、副市長からお話がありましたが、来年度からは具体的に次の総合計画の策定ということで、非常に重要な時期だと思います。委員の皆さまからは忌憚のないご意見をいただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは早速議題に移りたいと思います。事務局から、資料の1、それから2と3を連続して、また、4、5に分けて説明ということで伺っております。まずは資料1についてご説明をいただければと思います。</p>
2 第6次瀬戸市総合計画の計画期間における人口動態について	
事務局	<p>(資料説明：参考資料)</p> <p>(資料説明：資料1)</p>
座長	それでは、資料1の人口増減について、まず皆さまからご意見をいただきたいと思っています。特に第6次瀬戸市総合計画が始まってから社会増が続いていましたが、直近では社会減になっていますので、このあたりで何かご意見はいかがでしょうか。
委員	<p>2点あります。1点目は高齢化率の関係で、令和6年1月1日の高齢化率が30.1%、それから令和6年10月1日の高齢化率が30.3%ということです。そのまま読み解けば半年で0.2ポイント増ということですが、令和7年1月1日時点の高齢化率はデータとしてお持ちでしょうか。お持ちでしたら、追加でお話をいただくと、さらに直近でどのぐらい進行しているかということが読み取れるかと思っています。</p> <p>2点目ですが、5歳階級別社会増減数の比較の感想として、20代が著しく</p>

	減少しているということについて、いささか大きな危惧を抱いています。その反面、30代40代は社会増となっています。これは、生産人口の中心ですので、好ましい姿かと思いますが、一方で、外国人の方が大変増えているため、5歳階級別社会増減数と国籍の相関が分かるようでしたら開示いただきたいと思えます。
座長	2点質問がありました。事務局から回答いただけますでしょうか。
事務局	直近の人口データになりますが、令和7年1月1日の人口が12万6,274人で、令和6年1月1日の人口から1,137人の減少となり、高齢化率は30.3%で0.2ポイント増となっております。 続いて、5歳階級別社会増減数については、出典元が住民基本台帳人口移動報告であり、現状、日本人と外国人をクロス集計できるデータがありません。今後、こうしたデータが活用可能になりましたら、改めてお示しさせていただければと思えます。
委員	2点あります。1点目ですが、目指す都市像②「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち」に着目し、人口推移が結果としてどうなっているかを知りたいです。例えば、学ぶ環境については、にじの丘学園が本市のトピックになると思えますが、そういったことが影響してこの連区の比率が変わったというのが見えると、戦略と結果が紐付いていると思えますが、そのようなデータはありますか。 2点目も都市像②と関連しますが、以前この評価委員会の中で、人口を増やすには20代30代女性がたくさん必要で、その年代から子どもが生まれて人口が増えていくという話が石川座長からあったと記憶しています。5歳階級別社会増減数というところの男女比が分かれば、よりデータと紐付くと思えますがいかがでしょうか。
座長	それでは、2つの質問に対して事務局から回答をお願いいたします。
事務局	にじの丘学園に関連する連区においては、若年層人口の数値が改善傾向にあると認識しております。 20代30代の5歳階級別社会増減数について、男女比を分離したデータは確認できておりません。
座長	1点目のにじの丘学園の児童生徒数は、予想外に増えていますよね。にじの丘学園に入りたいという話がよく市民の中から聞こえてきます。にじの丘学園を理由に塩草に住宅を構える方が増えているという話が以前あったと思えますが、そのあたりの所感はいかがでしょうか。
事務局	以前も評価委員会の中でご説明させていただきましたが、塩草の土地区画整理事業に関連して、このエリアに子育て世帯が入り、人口が増えています。にじの丘学園の校区では、東明連区の人口構成比は変わってきています。これは、土地区画整理事業に伴う宅地供給があったことと、にじの丘学園のような教育環境の充実との相乗効果によって、増えてきたと考えております。
座長	委員が言われたように、戦略と結果が結びついている好事例があるということはとても大事だと思います。菱野団地では、施設分離型の小中一貫校ができるため、好事例があれば横展開すべきですし、もし課題があれば、その課題をしっかりと捉えた上で次の展開を検討していくべきだと思います。
委員	1点目として、人口増減の中で一番大事なのは、高齢化率が高くなった中で成人年齢をどれだけ確保できるかということです。5歳階級別社会増減数の中では、生産年齢人口をポイントに推移を見ていかないといけないと思いま

	<p>す。</p> <p>2点目ですが、社会増減に占める転入と転出の比率についてデータはありますか。</p>
事務局	<p>昨年度のデータとの比較では、転出が増加したのではなく、転入が減少して社会減の結果となっていますが、実数値についてはお答えできるものがございません。</p>
委員	<p>データ上減ったというだけではなく、人口構成の中身をしっかり見ていかないと、今後の政策をどういうするということに繋がらないと思います。</p>
座長	<p>年代別の転入と転出の変動等の細かいデータを捉える必要があります。ここでは資料がないため説明が難しいかもしれませんが、またフォローしていただければと思います。</p>
委員	<p>外国人の社会増のデータについては、前回会議で話があって出していたと思いますので、その年に実際どの程度の社会増があり、一方でどれだけ転出があったかという実数値を次回は出していただくと良いと思います。学校ができた年は転入が増える、というような傾向がデータから分かると思います。</p> <p>データを見た上での感想としては、まず将来人口推計に対する動向というところで危機感を抱いています。昨年までは、施策による最大効果を目指した推計人口を辿るような人口動態と見受けられましたが、今年に入って数字にもあるとおりに下がっていて、こちらの傾きが施策を講じない場合の推計人口の傾きより大きくなっています。この傾きが続いていくと、施策を講じない場合の推計人口を下回る可能性があるため、この場で対策を検討する必要があるのではないかと思います。</p> <p>その上で、昨年までの社会増や日本人の社会増が令和3年度まで多かったというのは、にじの丘学園や塩草の区画整理等による宅地造成といったところがとても大きいと思います。さらに、水野地域の宅地造成が行われる、あるいは菱野団地の小中一貫校による効果で一時的に盛り返すことがあると思いますが、それは一時的に社会増が増えたということであり、継続的なものではないと思っています。</p> <p>この第6次総合計画で作っていかねばならないのは、一時的な宅地造成で人口が増えていくというのではなく、継続的に瀬戸が人口ボリュームを保っていけるのか、どのようにして実現していくのかということについて今回話し合うべきと思っています。</p> <p>最初に見させていただいた地方創生2.0の基本的な考え方に繋がるところでもありますが、私は、地方のあり方について考える必要があると思っています。子育て世代や若い人の中では子育てや給食費などが相対的なものとしてポイント付けされ、消去法によってポイントが高いところを居住地として選んでいるような状況になっていると思っています。そういった地域間の競争に入っていくのは難しいと思っています。愛知県の中で市町村としてどれだけ財源があるかという財源勝負を挑んでいくことはとても難しいと思っています。ポイント制の中での消極的選択ではなく、地方の中から選んでもらうとするならば、最低限のポイントは抑えつつ、その地域の特異性を出していき、積極的選択の中でどういう人に来て欲しいのかということの方針として打ち出していくことが必要だと思います。</p>
座長	<p>非常に大事な視点で、一時的なことで一喜一憂するというだけでなく、長期</p>

	<p>的な視点で人口推移をみていかなければならないと思います。第6次総合計画が始まって8年が経っていますが、今後を占う時には長期的なことを考えなければいけません。人口の社会増減というのは結局のところ需要と供給です。需要の観点では、この地域が人々に選ばれるか否かということなので、地域が本当に魅力的なものになっているかというところが重要です。魅力的であっても宅地がなければ住むことができないため、供給が十分にあるかということも大切です。供給も宅地造成というやり方もありますが、空き家も増えていく中で、どのように住む場所と提供していけるかという長期的な視点が必要だと思います。</p>
委員	<p>座長が先ほど仰っておられた戦略と結果ですが、戦略を練るための一番の基本はデータだと思います。</p> <p>しかし、先程委員がおっしゃったように、20代が減少しているということにいきさかの危惧を抱いています。転出者に、何故転出したかを質問することは難しいかもしれませんが、転出理由を分析あるいは集約ができると良いと思います。</p> <p>また、施策を講じない場合の推計人口を上回っている状況であることに対し、第6次総合計画に基づく各種施策による一定の効果が表れていると記述がありますが、どういう施策を打ってそうなったのか、本当に第6次総合計画の施策効果があったのかということを検証していくというのは非常に楽しみでもあります。</p>
座長	<p>なぜ若い人が転出してしまうかという要因分析が必要だということですね。</p> <p>参考までに、私のゼミにはほぼ毎年瀬戸市に住んでいる学生が入りますが、入ってきた時、「瀬戸にはあまり魅力がない」と言います。要するに魅力に気付いていないということですが、1年間市内でプロジェクトをやると、こんな良いところだと知らなかったというふうに、色々な場所に行って魅力に気付くようです。そういう意味では、子ども達が大学に入るぐらいまで瀬戸の魅力に気付かないけれども、よく見ると実は面白い所だということがあるので、高校生くらいまでの間に、地域の愛着やシビックプライドを醸成するというのが非常に大事だと個人的には思います。</p>
委員	<p>私自身は恐らく少数派で、20代で瀬戸に戻ってきた立場なので、まさに大学生の時に改めて地元を見てみようと思い、瀬戸が面白いなと感じました。</p> <p>20代前半から後半で人口に転出が増えるというのは日本全国どの地域でもあり得ることとあっていて、大多数としてそういった動きがあるのは、避けられないと考えています。ここで大事なのは、その中でどれだけ人口を増やせるか、あるいは戻って来る人を増やせるかということだと思います。そのためにできることとして、このまちの魅力を出して行って、どういう人に瀬戸に引っ越してきてもらいたいのか、瀬戸で子育てして、瀬戸で仕事をしたいという人はどんな人かを認識してアプローチをかけていくということが必要だと思います。</p> <p>また、若い人は先ほど話したような、子育てなどのポイント制で居住地を選んでいるわけでもないと私自身感じています。ポイント制での選び方は生きるために必須なものではあるかもしれませんが、楽しい選び方ではないため、それよりも心惹かれたからここに住みたいという感じで、もう少し感性的な部分で居住地を選ぶこともあります。そういった部分がないがしろにされているというのは、国の動きでも地方の動きでも感じています。</p>

座長	補足的な発言をしていただきました。 本日欠席の委員から書面で意見をいただいておりますので事務局からお願いいたします。
事務局	令和5年から日本人の社会減が続いており、その減少数が年々大きくなっている、また、令和7年には社会増減が179人の減少となったことについて、なぜ日本人が社会増から社会減に転じたか、なぜ減少数が年々大きくなっているかを分析し、将来のことも視野に入れながら、まずはこの2年間で取ることができる対策を行うべきと考える、とコメントをいただいております。
座長	他にもご意見をいただいておりますので、都度ご紹介できればと思います。それでは次に移りたいと思います。事務局は引き続き資料の説明をお願いします。
3 第6次瀬戸市総合計画及び第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の進行管理について	
(1) 「第6次瀬戸市総合計画」の進行管理について	
事務局	(資料説明：資料2)
(2) 「第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行管理について	
事務局	(資料説明：資料3)
座長	それでは資料2、3に基づき、また皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思います。人口は先ほどの資料と重複しているところもありますが、全体を通してご意見をいただければと思います。
委員	<p>産業振興、創業の分野において、継続的・持続的に事業者を支援するという部分で、瀬戸市の事業にも携わらせていただいております。</p> <p>今回のメインテーマは人口減少をどう止めるかというのが非常に大きいと思いますが、1点目は瀬戸にまず住む、市外から来て住み続けるという意味で、愛着等の指標が重要と思います。</p> <p>もう1点は、瀬戸で事業をしたいということです。せと・しごと塾でも、名古屋から移住して瀬戸で事業を立ち上げたいという方がいらっしゃいますし、瀬戸で物件を探しているもののあまり良い物件がないと言われる長久手の方もいらっしゃいます。瀬戸で事業をやりたいと考えておられる方をどう受け入れるかということが重要かと思います。市としては、大規模な企業の誘致というのもやっていますので、様々な施策が噛み合って、人口減少対策になっていくのだと感じています。</p> <p>また、最近は商店街でお店を出したい方から多くの相談が来ておりますが、物件がないという状況であり、ポテンシャルはあるように考えております。若い方が起業するケースが私の周りでは多く、若い方が若い方を引き寄せているという好循環が生まれつつある状態だと思っております。</p> <p>愛着というところでは、私もよそ者で瀬戸にやってきておりますが、当時名古屋に勤めておりましたので、瀬戸に愛着はありませんでした。</p> <p>そうした中、瀬戸で起業することになり、せと・しごと塾を通じて地元で起業意向のある方の支援を始め、初めて瀬戸にこういう人たちがいることに気が付きました。せと・しごと塾では、地域の問題や課題を解決するビジネスを志向する方を募集しているため、受講者は熱い想いを持っていて、こんな人たちがいる地域っていいなという意識に変わりました。</p> <p>利便性という点では瀬戸は弱いかもしれませんが、働く中で瀬戸の人たちに商品を提供することを継続していきたいと考えたり、近所の方たちも良</p>

	<p>い人だから助け合いながら住み続けたいと思ってもらえる方が増えていくと良いと思います。</p> <p>資料3に関連して、焼き物をはじめとする作家さんが多いという特徴が瀬戸にはあります。先ほど別の委員がおっしゃられたように、瀬戸の特徴をどう生かすかという点で、全部のポイントで挑むと財政力で負けてしまうかもしれないけれども、特色があるから瀬戸いいじゃない、こういうことやりたいなら瀬戸いいじゃないと思ってもらえるような要素、いわば、とんがっている要素がいくつかあると良いと思っています。</p> <p>実際に、長久手、尾張旭、名古屋で作家活動している方からは支援場所があまりなく、作家に特化して支援している瀬戸は羨ましいと言われます。私の仕事上、他市の方から羨ましいと思っただけの特色になっていることは良いことだと思っています。その上で、ツクリテ人材バンク登録者数を総合戦略の基本目標1「しごと」のKPIに掲げられていることについては疑問が残ります。瀬戸は作家を養成する場所が充実していますが、卒業後の仕事がないということを私自身は課題として認識しています。</p>
座長	人口変化やその要因について実感を踏まえて、お話いただいたと思います。
委員	<p>先ほどの委員に一言だけ反論がしたいのですが、私は新瀬戸周辺に住んでおりますが、こんな便利な所はないと思います。鉄道駅が2つ、大きな病院、学校・保育園・幼稚園、ショッピングモールや薬局等が身近にあり、大変便利に思っていて、安心して年を取ることができると思います。</p> <p>資料2の中で市民アンケート結果「住みやすさ」について、「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」のポイントを合計したものを記載していただいておりますが、概ね70%の数値で推移しています。市民アンケート結果「住み続けたい意向」の方も同じようにまとめていただいておりますが、こちらは概ね60%台で推移をしています。これらのデータから、住みやすいと思っても、住み続けたいと思う人はそれよりも少ないという現象が見えていますが、こういったデータの解析によって、次にどういう手を打つかというのが分かりやすくなるのかなという気がします。</p> <p>特にデータをクロスした集計があると、より分かりやすいと思います。例えば、転入してきた若い人がどのような意向を持っているかということも把握できますし、外国人の方がどのように考えているかも大きな指標になると思います。もし、外国人の方が極端に増えた場合は、日本人の方とは違う政策を取る必要が出てきて、財政負担が増えるため、データを解析して備えることが必要になります。</p> <p>都市像②では、「⑤若い世代の住みやすさ」から若い人たちがどうして住みやすいと思っているのかという観点で見た時に、社会増になっておらず、このデータから若い世代がどう思っているのかは分からないため、年齢をクロスした集計が必要です。</p> <p>最後にもう1点、私の本業の方になりますが、資料3の基本目標4「ひと」のところに「地域のつながり」があります。「地域のつながり」の指標には、自治会の加入率が用いられておりますが、目標値が80%に設定されており、現場で実務を担当する者としては非常にハードルの高い、実現不可能な数値だと思っています。こういった現状だけは、皆さまにご承知おきをいただきたいと思っています。</p>
座長	冒頭で利便性の話がありました。第6次総合計画の基本構想審議会の際、私

	<p>も瀬戸は便利だと申し上げました。全国様々な所へ行っているため、いわゆる人口が大きく減っている地方と瀬戸は全然違います。全国的に見たら全然良い所ですが、鉄道駅やインターチェンジを活かしきれていないという印象があります。</p> <p>事務局に確認ですが、次期将来計画を作るにあたって来年度はアンケートの実施予定はありますか。</p>
事務局	<p>令和7年度にアンケートを実施予定です。ちなみに、前は令和4年度に実施しております。</p> <p>「住みやすさ」は年齢別に見ても、あまり大きな特徴はありませんが、「住み続けたい意向」では、年齢が上がるほど住み続けたい意向が高まる傾向があります。もう1つの「まちへの愛着」は結果が少し面白く、「愛着がある」と「まあまあ愛着がある」の選択肢をまとめて愛着があるとしています。「まあまあ愛着がある」を除いた「愛着がある」の回答については10代・20代が一番高いという結果が出ています。このようなクロス集計を来年もやりながら、総括分析につなげていきたいと考えています。</p>
委員	<p>資料2で、住みやすいと感じていない人たちがどうして住みにくいと思っているのか、どこの地域の人かについて知りたいと思いました。</p> <p>指標については、必ずしも指標とデータがマッチしてない部分があると思います。例えば、都市像③の「⑧障害者福祉の充実」はデータ上かなり充実しているように見えますが、障害福祉事業所や通所支援事業所の数に基づいて算出されており、数が充実しているということが、福祉が充実しているということとイコールではないと思います。令和8年度に障害者雇用率が引き上げられますが、この雇用率に従っている企業がどれだけあるかも障害者福祉の充実といえると思います。</p> <p>「高齢者の活躍」も65歳以上の就業率とありますが、働くだけが活躍ではなく、例えば自治会等様々なところで力を発揮されている方もいるため、就業率だけではないのかなと思いました。</p> <p>また、人口を増やしていくということはとても大事なことだと思いますが、誰にとっても良いまちというのはとても難しいと思います。子どもを育てるなら瀬戸、障害があるなら瀬戸、働くなら瀬戸というように特化した部分を作っていくのも良いのではないのでしょうか。</p>
座長	<p>データだけでは表れないところがたくさんあるため、そういった部分をしっかり分析し、評価委員会で考察することが大事だと思います。委員には福祉や高齢者など様々な視点でお話をいただきましたが、様々な見方が必要だと思います。</p> <p>子育てについては、私も瀬戸で子育てしましたが、身近に岩屋堂やねむの森、定光寺等の自然があるためすごく便利でした。名古屋の大学に勤めていると、昭和区は比較的緑が多くありますが、キャンパスの中で子育て中の方が虫を探したりしています。瀬戸に住めばもっと身近に自然があるののではないかと思いますし、そういった利点を生かしていければと思います。</p>
委員	<p>都市像②「⑩子育て支援の満足度」は策定時から基準値の70%に対して市の数値が35.1%と低く、現状も44.9%と低い状態になっています。都市像③「⑫地域の支え合い実感度」も42.7%から38.1%に下がっています。</p> <p>私は子育て世代の40代半ばなので、子育てや介護がある世代ですが、住み</p>

	<p>やすさという、仕事と子育てや介護のバランスが取れるというところに重きを置くため、この結果を見ると、住みやすきのデータに対して数値が低いように思います。特に県平均値に対して市の現状値がかなり低いように思いますが、このあたりの要因分析についてはいかがでしょうか。</p>
座長	<p>県数値と市数値の差と調査方法について、事務局から回答をお願いします。</p>
事務局	<p>基準値については、県のアンケートではなく、県内で類似のアンケートを取っている自治体の平均値となります。このため、全く同じ設問ではないということも、県数値と市数値の差を生む要因としてあるのではないかと考えています。</p>
委員	<p>都市像②の「②女性の働きやすさ」では、25歳から39歳までの女性人口に占める有業者の割合をみています。40代半ばになると介護の話が出てきて、介護離職で女性が辞めざるを得ないことが多いと思います。都市像②ではないかもしれませんが、もう少し年齢が高い方に対してもデータを取っていただくことをご検討ください。</p>
座長	<p>しっかりと分析するために、細かいデータをご用意いただければと思います。</p>
委員	<p>基本的には日本全体が人口が減少していく、かつ、生産年齢人口が少ないという大前提がある中で、今後どうしていくかというのが計画の中にあるべきで、これはまちの創り方にもつながってくると思います。インフラの老朽化に対する整備が求められる一方、住みやすさも求められ、その例として、学校を小中一貫校として整備し、結果的に成功だったと言えます。</p> <p>コンパクトシティ化に向けてインフラや施設の整備を進めるには、とても大きな額を投資していかなければいけません。そのためには、人口が一定数必要で、人を集めるためにはどこに集中して整備を進めるかを整理する必要があります。こういった部分を次期将来計画に前提条件として盛り込んで欲しいと考えています。</p>
座長	<p>インフラの老朽化が進む中で、まちの全体像を総合的に考えておくということや優先順位を整理しておいた方が良いというお話をいただきました。</p>
委員	<p>3点あります。まず1点目は、資料2の「住み続けたい意向」について、目標値に対して現状値が低いですが、これはアンケートの取り方が原因ではないかと考えています。こちらのアンケートだけ「わからない」という選択肢があり、住み続けて良いかわからないときに、逃げの選択肢として選ぶことが考えられると思いました。基準値として近隣市町の平均値がありますが、基準値にも同様に「わからない」が選択肢に入っているかどうかを確認しなければ、正確な判断ができません。</p> <p>2点目ですが、共通認識として持つておかないといけないと思うのは、愛知県が世界的にも恵まれた特殊な場所だということです。世界的にトップクラスの車メーカーがあり、それを下支えする大きな子会社があり、さらに様々な会社の平均所得がこれだけ高い県はありません。近隣市町の公園や施設、インフラのことを見聞きしてしまうと、意識せざるを得ず、そういった地域間の競争に参加しないといけなくなってきます。競争に参加することはある程度必要だと思う一方、それだけでは疲弊するばかりになってしまうため、やはり特徴を活かすことを考えなければいけないと思います。そういった意味で、周辺環境としての愛知県の性質は改めて認識する必要があるのではないのでしょうか。</p>

	<p>3点目は観光についてです。観光は暮らしと切り離されて考えられることが多いですが、そうではないと思います。瀬戸で働いてみたい人がそのまま移住したり、観光に来た人が移住することはよくあります。私が経営する宿泊施設では、毎週のように移住希望者が相談に来ており、相談にのったり物件紹介をしています。これを日々の観光にどう生かしていけば良いのかなと思ったときのヒントが関係人口です。ただ観光に行くだけではなく、そこに住むでもない、その間を作りましょうということで、定期的にまちに関わっていく人口を関係人口としています。</p> <p>関係人口の前段として昨今使われるのが「暮らし観光」という言葉で、日本人に向けてただ消費をする観光ではなく、この地域って元々どういう地域で、どういう産業があって、どういう人が暮らしていて、どういうお店があるんだろう、というのを見ながら回っていく、消費される形ではない観光に可能性を見出していくというのが今地域の間で広がってきています。「暮らし観光」と瀬戸市はとても相性がいいのではないかと、私の活動の中で瀬戸に移住したいと来てくれる方々は、おそらくそういった感覚ではないかと感じていて、暮らしと観光を分けて考えるのではなく、一体として考えていく必要があると思います。</p> <p>そうした中で、例えば総合戦略の基本目標2「にぎわい」のKPIとして設定しているホームページの閲覧数等の観光を測る指標に対しては疑問に思っています。今の瀬戸市で言うと、シティプロモーション、文化、観光と分野ごとにホームページが別立てされてしまっています。私の宿泊施設には、毎月100名ほど海外の方が来てくださっていて、特に瀬戸と相性がいいのは北欧系の方です。デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、ベルギー、あるいはスイスといった方が工芸経由で瀬戸に興味を持ち、瀬戸を選んでわざわざ来ています。魅力を感じて瀬戸を選んできてくれる状況が、私の施設だけでもそれだけいるため、おそらく瀬戸全体ではもっと多いと思われます。ただし、そういった層に対して情報がきちんと出せておらず、今後は戦略立てて取り組む必要があります。</p> <p>現在、日本で問題になっているインバウンドによる地域の消費化ではなく、まちに対してお金が流れて、来てくれた方の満足度も高まるという、インバウンドとの良い関係性を作っていけるのではと考えています。</p>
座長	<p>移住につながるような関係人口や、またその手前となる「暮らし観光」について参考にしていただければと思います。</p>
委員	<p>瀬戸市は鉄道などのインフラや施設が整っていて充実している方だと思いますが、それが知らされていないということが問題かと思います。第6次総合計画の残り期間にどれを集中してやればいいのかという議題だったと思いますが、それはいわばプロモーションではないかと思います。瀬戸市のことを周りの人に伝えるというのがプロモーションの主だと思いますが、それだけではなく、暮らしの中でのごみの捨て方やリサイクル等についても周知が行き届いていないと聞きます。市民の暮らしやすさということも含めて、きちんと市民に届く形でプロモーションを考えていかなければいけないと思います。</p> <p>また、次期将来計画については判断に迷った際の羅針盤となるのが、この多様な世の中においては大事だと思います。個別論ではなく大局的な視点でこれからの瀬戸市を示してもらえると市民一丸となれるのではないかと感じました。</p>

委員	<p>金融事業の関係からいうと、事業所の本社移転を積極的に誘致していただきたいし、逆に本社を市外へ移すことがないように策を講ずる必要があると思います。本社の誘致により、この会社は瀬戸市が本社だねと言ってもらえる上に、雇用から若い世代が転入するきっかけになるかもしれません。大きい会社だけではなく、スタートアップ等これから成長する会社に場所を提供するのも良いと思います。瀬戸は比較的災害に強い場所であることもPRすることで、市内への誘致を進めてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>本社移転の話はとても大事で、国も東京から本社を地方に移転することに対して支援しているため、その移転先が瀬戸であると非常に良いと思います。本日欠席の委員からのご意見はなにかありますか。</p>
事務局	<p>委員からは、瀬戸市の製造品出荷額等は第6次総合計画策定時の数値より減少しており、市内事業所の従業員も減少しています。一方、就業者一人当たりの市内総生産は増加していることから、製造業を中心に、事業の効率化・合理化が進みながら、市内事業者の淘汰が進んだということになるか、実感としてもそのように感じる、とコメントをいただいております。</p>
座長	<p>私も第6次総合計画の最初の構想作りの時から関わりましたので、少し話をさせていただければと思います。まず、第6次総合計画が始まって8年経ちますが、始まってすぐ社会増となり、順調に進んでいるなど思っておりました。直近の社会減の結果は残念ですが、振り返ってみると、直接の因果関係は分かりませんが、日東工業さんの企業誘致などの大きな動きがありました。日東工業さんの工場はおそらく300人ほどの規模ですが、家族を含めると900人程度になるため、その程度の規模が瀬戸市に住んでもらえていれば、だいぶ影響はあるのだらうと思います。</p> <p>他にも、これまで民間の小学校やにじの丘学園、ホテルの誘致等、様々な動きが大きく目に見える形がありましたが、やや動きが停滞してしまっているような感覚が私の実感としてあります。</p> <p>瀬戸は名古屋や豊田に務める方が住まいを求めることがあるようですが、豊田市は駅周辺の開発整備や、市街化調整区域の都市計画をスピード感を持って進めています。瀬戸市はこれから2年かけて次期将来計画が作られますが、考えてばかりで足踏みしていると、需要を逃すこともあるため気をつけなければいけないと思います。</p> <p>私自身は勤務先の都合で瀬戸市にUターンで戻ってきて、改めて瀬戸を見たら面白いまちだと思いました。自然が近くにあって、栄にもすぐ行けて、子育ても上手くできるところで、何も問題ない、むしろ良い所ではないかと思った記憶があります。若い方に選ばれるまちでなくてはいけないという点では、公共交通という非常に大きな課題への策を講じなければ、実感として便利だと感じられないと思います。</p> <p>また、人口減少や高齢化が進んでいるのは中心市街地、菱野団地と品野で、そういった所から先に課題が出てきています。このような課題先進地域で課題に取り組む中でトライアンドエラーを行い、そこで得た良い知見は横展開し、新しく出てきた課題については改めて課題解決の施策を打つことが必要だと思っています。</p> <p>自治会の加入率が低くなっているという話がありましたが、人口が減る中では、地域のつながりが大事です。様々な地域とのつながりを保っているというのは、帰ってきた人にとっても嬉しい話ですし、地域のつながりがあるとこ</p>

	<p>ろに帰ってきたいという若い人たちもいると思います。</p> <p>都市像指標では犯罪や事故が他の地域に比べて少ないため、このような安全性はもっとPRして良いと思います。</p> <p>観光については、先ほど別の委員が例に挙げられたヨーロッパの方々は長期滞在をするため、暮らして観光して消費をするという良い経済循環が出てくると良いと思います。</p> <p>それでは他に資料の4、5がありますので事務局より説明いたします。</p>
(3) 「第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「地域再生計画（瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進計画）」の計画期間延長について	
4 次期瀬戸市将来計画の策定について	
事務局	<p>(資料説明：資料4)</p> <p>(資料説明：資料5)</p>
座長	資料4、5は一括してご説明いただきましたが、今後の計画についてご意見ありますでしょうか。
委員	次期将来計画については、このまちの進むべき方向についてきちんと方針を立てられるものができれば良いと思っています。
座長	どの方向に行くか分からないから停滞しているというのが一番不安なため、ちゃんとした航路を見つけ、前に進んでいる感があるというのはとても大事です。
委員	<p>データをもとにどの方向へ行くかということですが、まずは現状の把握が一番必要で、令和7年4月から市民アンケートを実施するというですので設問項目に興味があります。関連して市の職員全員に別途アンケートを取って欲しいと考えています。私の関係で言えば、特に若い方の自治会加入率が特に少ないため、市の職員へ自治会に加入しているか、自治会活動に参加しているか、自治会活動についてどういう印象を持っているかについて、アンケートをとっていただきたいと思っています。</p> <p>我々の取組としては自治会加入率を上げるというより、下げ止まりをさせることを目指しています。市の職員の半数程度は地元にお住まいだと思いますので、どのような意向を持っているかを把握するためのアンケートを実施していただければと考えております。</p>
座長	地域のつながりにおいて自治会は一丁目一番地みたいなところがありますので、現状把握は大切かと思えます。
委員	<p>社会ニーズが変わっていくことなどを踏まえると、10年の計画期間は長いと思います。私の専門分野では、介護が急激にニーズとして挙がってきていますし、新たなニーズが指標に反映されないことや適当な指標でなくなるケースが発生すると思います。</p> <p>例えば、都市像②「⑨多世代による子育て」では3世代同居の割合を見えますが、多世代での子育てのニーズとして、近年は同居より近居を望む声が増えており、また3世代同居はこれから何をしたとしても減っていくだろうと思います。10年前に良しとされていたことが変わっていくケースがあり、10年という単位が今の時代の変化に対して最適ではなくなっていると思いますし、計画の終盤においては時代に即さない指標について検討しなければならず、現に違和感があります。</p>
座長	総合計画の基本構想自体は条例で決まっていますが、条例には年数についての記載はありますか。

事務局	<p>基本構想条例の中には、年数は定められていません。第6次総合計画のような基本構想、基本計画、実施計画という三層構造とするか、計画期間についても検討中です。その中で、基本構想、第6次総合計画という将来像「住みたいまち、誇れるまち、新しいせと」は、ある程度期間が長くても良いと考えておりますが、基本計画、少し具体的な方針を示す部分を10年計画として取り扱うのは長いと我々も思っています。</p>
座長	<p>計画期間についてはなかなか難しく、短すぎてコロコロと変わってしまうのも問題があり、ヨーロッパでも10年の計画期間のものがあったり、都市の構造は2050年を見据えるものもあります。いずれにしても総合計画に関しては、昭和40年頃から国が自治体に策定を指示し始まりましたが、今は各自治体にある程度の自由度があると思います。</p>
委員	<p>次期将来計画についてはやはり瀬戸市としてのメッセージになると思うので、市民も市役所の職員さんも含めた様々なプレイヤーが明確に動けるような、瀬戸市の方針がメッセージとして発信できればと思っています。</p> <p>現行計画では、計画に載っている重点分野と予算額がマッチしていないと感じているため、方針と予算がきちんとマッチするようにしておいて欲しいと思います。</p> <p>また、商工会議所に属さない事業者など、孤立している事業者が多くあるため、次期将来計画の策定にあたっては、このような事業者にも意見を聞いてもらえると、市全体で参画意識や愛着が出てくるように思います。</p>
座長	<p>様々な分野できめ細かく意見が聴取することについて、参考にさせていただければと思います。</p>
委員	<p>次期将来計画については大枠で作っておかなければいけません。3年先が分からない時代であり、細かく作りこむのではなく、時代に即して臨機応変に変えていくものとして欲しいです。</p> <p>現場からの要望を受けてから予算化までに時間がかかるケースがあり、予算化できた時には現場のニーズが変わってしまっているということがあるため、スピード感は大事だと思います。</p> <p>また、計画物は作ると計画だけが残ってしまうことがあります。状況が変われば計画を取り下げることでも必要であり、計画をどのように使い込んでいくかということを想定した上で、計画を作っていかなければいけません。計画を立てて実行して結果を享受するのは我々であるため、我々の段階で軌道修正ができるように計画するべきだと思います。</p>
委員	<p>前の委員の話を、少し角度を変えてお話させていただきたいと思います。要するに予算と計画が乖離し過ぎているという話だと思います。予算は計画によって担保され、計画は予算によって実効性が確保されると私は思っています。計画を実行させるためにどういう手段を用いたかというのが予算ですが、予算と計画があまりにも乖離しすぎているために非常に分かりにくくなっていると思います。</p> <p>現に今日は、企画部門のみで財務部門の方がいらっしゃらないので、既にこういうところから乖離が始まっていると思います。</p> <p>「当初予算の概要」と「決算に係る主要な施策の成果に関する報告書」を市が出していますが、相当のボリュームがあります。私の分野で言うと、自治会加入率の問題がありますが、自治会加入率を引き上げるために果たしてどういう手段を瀬戸市が用いてくれたかをこの資料の中から私は探すことができ</p>

	<p>ませんでした。予算と計画の乖離を埋めるような運営をしていただければ、前の委員がおっしゃられたことも少し充足できるように思います。</p>
座長	<p>次期将来計画や現行計画の進め方について様々なご意見をいただきましたので事務局で参考にしていただければと思います。</p>
委員	<p>評価委員について、若者枠で私を呼んでいただいたとっておりますが、気付けば私も30代になり、20代の人がいても良いように思っています。評価委員の入れ替わりや評価委員会の今後のスケジュールについて教えてください。</p>
事務局	<p>現在委嘱させていただいている9名の委員の方々につきましては、委員の委嘱期間が今年度末までとなっています。残り2年間については改めて委員の委嘱を依頼させていただくことを基本線にしつつ、ご意見をいただいたように、新しく別の委員の方を選定させていただくという形もあり得ると考えております。</p>
委員	<p>私は、障害者、高齢者、子どものような弱者と呼ばれる方々に目を向けて欲しいと思います。ただ、財政を生み出していくものを作らないと、弱者に目が向けられないため、財政を生み出すためには人が集まるなり、働くなりというところに注力しなくてはいけないと感じました。</p> <p>様々な分野でのアンケート結果を取られていると思うので、自分の分野外でもアンケート結果を把握する心がけが大事だと思いますし、こういった会議体で話し合われた結果を発信することも大事だと感じました。</p>
座長	<p>財政はとても大事で、市税は所得課税の市民税と固定資産税が多くを占めるので、要するに住んでももらったり、事業者が増えなければ税収が増えません。そういう意味で、生産年齢人口の方に住んでももらったり、誘致で事業所を増やすことが大事ではと思います。</p> <p>第6次総合計画が終盤になってきて気がかりなのは、社会減に転じてしまった点ですが、幸い今日の公示地価によると瀬戸市の地価は上がっています。地域を見るときの大きな指標は、人口のうち特に社会増減と地価で、魅力がない地域は地価が下がってしまいます。</p> <p>次期将来計画の策定スケジュールと関連して、毎年現行計画を動かしていかないといけない中で、7年度と8年度は停滞してしまうということにならないかが気がかりです。</p> <p>民間との関係では、商店街や様々な事業者の方々にはスピード感をもって新たな店舗を展開したり、事業をこなしたりしていくため、そのスピードに行政が合わせるができるかが課題です。</p> <p>菱野団地は半分の世帯が県営住宅で、今後の建て替えがどうなるかが分からないと、人口予測さえできないため市から県への働きかけが必要です。</p> <p>次期将来計画については様々な市民のアンケートや意見聴取はとても大事ですし、若手の職員の方々の意見を聞いて欲しいと思います。</p> <p>座長としては、以上となります。</p>
事務局	<p>本日のご議論の内容は、まずは議事録としてとりまとめ、委員の皆様にご確認をいただきたいと思います。</p> <p>その上で、庁内の会議で各部長に報告し、各課へとお伝えして、今後の、日頃の政策推進に反映していきたいと考えています。</p>
閉会	
事務局	<p>委員の皆さま、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。</p>

また、座長には円滑に会議を進行いただき、ありがとうございました。 それでは、これを持ちまして、令和6年度第6次瀬戸市総合計画評価委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。皆様、気を付けてお帰りください。

以上